

やまと農業・最適化推進運動

農委会名：山都町農業委員会

1 地域の概要

本町は熊本県の東部に位置し、県内自治体で3番目の面積を誇っている。その面積は544.83km²有しており、阿蘇南外輪山から九州山地の脊梁までを圏域に、起伏に富んだ独特の渓谷を形成している。標高は300から900mの豊かな自然を中心とした中山間地域にあるため、多くの集落に農地が点在する農業の条件不利地域である本町において、将来の集落の農地を保全するため、地域計画における担い手を支援するとともに集落営農を推進している。

また、本町は有機農業の先進地でもあり、安心・安全な農産物を生産する環境保全型農業に積極的に取り組んでおり、米・茶・栗・トマト・キャベツ・ブルーベリー、椎茸やタケノコなどの農産品が有名である。

2 農業委員会の体制

- (1) 農業委員数 19人（うち認定11人、女性2人）
- (2) 推進委員数 28人（うち認定11人、女性1人）
- (3) 事務局体制 4人（うち専任3人、兼任1人）

3 掲げた目標

- (1) 担い手への農地集積・新規就農者への農地の確保や相談活動・研修活動の充実
- (2) 遊休農地や耕作放棄地の解消

4 目標達成に向けた取組み（運動）の内容

タブレット活用に向けて、タブレットの操作研修会を実施した。

現地確認の際にタブレットを活用して、農地情報の確認を行っている。

山都町農業委員会では令和6年8月から定例総会へ提出する議案、説明資料について、タブレットへのデータ送信のみで対応し、紙資料の郵送は取りやめている。



【タブレットの操作講習】



【タブレットを活用した議案説明状況】

5 取組みの成果（できるだけ数値を用いながら、具体的に）

耕作放棄地の解消に向けて、年間を通じて農業委員による農地パトロールを行った。

【農地パトロールの状況】



地域計画づくりにむけて、地図を見ながら農地の状況を確認した。



【地域計画づくりに係る会議】

6 課題と今後の方針等

中山間地域における農業を取り巻く情勢は、農業者の高齢化・後継者不足・有害鳥獣被害・並びに耕作放棄地の増加など、以前にも増して大変厳しい状況になってきている。

このような中、集落営農や地域全体で農地の維持や保全・管理のための取り組みを推し進めていくこと、併せて農業者が高齢化していくなか老後に安心・安定した生活ができる基盤を築いていく体制づくりが必要と思われる。

農業委員会及び関係機関の連携した総合的な取り組みや、農地利用最適化実践チームの有効な活動が、これからの農地保全や農業生産及び生活基盤作りに繋がるものと考えられる。